



# たけうちんぐ ライブレポッポ

2011年8月28日／MAHOΩ／早稲田ZONE-B  
文と写真・竹内道宏／デザイン・大西裕己

**バンドを愛するがゆえに  
偏愛ばかりかも知れなくて色々と怖がっている  
竹内による、『たけうちんぐライブレポッポ』  
第9回目です。どうも失礼します。  
今回は、8月28日に行なわれた  
台湾のバンド・透明雑誌のツアーファイナルでの  
MAHOΩの初ライブの様子をレポッポします**

あなたは MAHOΩというグループをご存知  
だろうか？

僕は読まず、「マホー」と呼ぶ、その名の通り、  
魔法を唱えられたかのように目の前の景色を  
自由自在に変化させてくれる。女性メンバーが  
大半を占め、ポップでどこか懐かしいメロディ、  
ドリーミィだけど現実的な歌詞で魅了する。

早い話、かわいいのだ。

夏真っ盛りの8月28日。場所は早稲田  
ZONE-B。

初ライブだというのに、台湾の人気バンド・  
透明雑誌のジャパンツアーファイナルに出演。  
しかもトリ前。それにハードコアバンドが3連続  
で出た後、フロアが十分に熱くなつてから、  
MAHOΩの出番が来た。

はるかと森川あづさが向かい合って鍵盤を  
鳴らし、後ろでキムのベースとアユのドラムが  
演奏を支えている。その横でナナエがコーラス  
とギターで彩り、前方中央ではじゅんじゅんと  
MAXがタンバリンを鳴らしながら歌い、時に踊  
る。

大人数、そしてそのフォーメーションからし  
て、バンドというよりはオーケストラのスケール  
さえ感じる。

そして初めてのステージとは思えない賞賛  
がある。そもそも、メンバーそれぞれが別  
のバンドでも活動しており、そこで培った経験

が MAHOΩに集結しているのだ。

1曲目は『MAHOΩのShow』。じゅんじゅんと  
MAXのボーカルに、はるか、森川、ナナエのコー  
ラスが合わせる。5人の女性による「アイネ・ア  
イネ・アイ～」という声から、鐘が美しく鳴った  
ようにライブはスタートする。リズムは途中か  
ら加速し、リズム隊の土台の上で、鍵盤3台が自  
由に泳ぎ回っている。

始まりにふさわしいハイテンションな曲。  
MAHOΩにとって縁起のよいスタートとなっ  
た。

そして間髪入れずに『mahOtokiΩ』。この曲の  
作曲者であるアユの力強いドラムから始まり、  
意味よりも感覚が先を越していくような歌詞で  
突き進んでいく。「グッドなメロで今夜も飛ばす  
わ」とはまさにその宣言通り、お揃いの水玉模  
様の服を着たじゅんじゅんと MAX が会場を

MAHOΩの世界へ誘い、心地の良いスピードで  
飛ばしてくれる。

最初の2曲が終わると、中央の2人による

MCが。じゅんじゅんが「ニーハオ…」と、透明雑  
誌のツアーファイナルだからか、台湾の言語で  
話しかける。それを MAX が翻訳する。「私たちは  
MAHOΩです。仲良くしてください」の声に歓声  
が起き、突然のインターナショナルな光景に戸  
惑いまじりの笑いも。

その後は『Splash!』。これまたクセのある楽  
曲で、MAHOΩの裏の仕掛け人・音楽前夜社の  
ユウが作詞と作曲を手がけている。女の子の生  
理をロマンチックに表現したものであるが、出  
てくる単語がいちいち印象的だ。

「いつまで？ 蜜まで？ No 蜜な Week だか  
ら、その手止めて って悩み出しても 絞りき  
るまではややこしいトマトジュース って、歌  
い出しても 約束飛ばし流れる血潮」

蜜とかトマトジュースとか。これをかわいい  
女子に歌われるのだから、不思議な感覚に陥つ  
てしまう。

そして『しあわせの恋』。この曲は今後、あらゆる  
ところで評価されていくだろう。まるでクラ  
シックの名曲を現代風にアレンジしたかのよう  
な鍵盤のメロディが一気に3台で押し寄せ、先  
ほどまでタンバリンを鳴らしていたじゅんじゅ  
んが突然踊り出す。

不思議ちゃんのような予測不可能な踊りに、  
鍵盤を鳴らし終えた MAX も参加する。2人は  
交互に歌い、それは1980年代のアイドルのよ  
うなどこか未完成なかわいさであると同時に、  
未知数なかわいさでもある。

解釈を無限に引き出せる、曖昧な表現を含ん  
だ歌詞。だけど、どこかしら直接的。男女の恋の  
かけ引きを女の子目線で描いているが、作った  
のは男性のユウ。それがまた面白いのだ。

「抱いてるようで抱かれてるようで 後出し  
のジャンケン 100秒の恋と1億の戦士たち」

曲が途端に静寂になり、鍵盤だけの音の中、  
森川とナナエのコーラス。じゅんじゅんと MAX  
は会話をしているかのような、感情を表したよ  
うな不思議なダンスをしながらお互いのマイ  
クの立ち位置を華麗に入れ替わる。その瞬間、  
100秒間の恋をし、1億の戦士たちが胸騒ぎを

してしまうかも知れない。

終盤では MAX が踊りをやめて、鍵盤に向かっ  
て音を鳴らす。「しあわせ、きっかけの」と同じ言葉  
を歌い続けるじゅんじゅん。最後は鍵盤3台が  
ドリーミィな音で強烈な余韻をもたらす。夢く  
もかわいく、そして面白い『しあわせの恋』は、  
MAHOΩにとって重要な曲であることは間違  
いない。

その後、ステージの照明が暗くなり、鍵盤の  
音が静かに響く。『未知語／未知絵』が始まる。  
踊りがなくなり、しっかりと歌声を聴かせる時間  
へ。幻想的でありながら、どこかしら故郷の懐  
かしさ。

しい風景を思い出させるメロディ。「一期一会」  
を文字たであらうそのタイトルから、人生で  
一度しか出会えない未知なる言葉と風景を暗  
闇の中でイメージできる。

再びじゅんじゅんと MAX による台湾語とそ  
の翻訳の MC。次回のライブ告知である。台湾の  
言語で話すところから、もはや「台湾から海を  
渡ってライブを観に来てください、てか、来なさい」といった若干の強引さを感じさせてくれる。

そして、2人の変身ポーズのような動きから  
始まる『僕らに愛を』へ。

細かい手の動きやキラキラした表情から、客  
席から「かわいい…」という女性の悲鳴が。タ  
イトルの通り、僕らに愛は注がれたのだ。インバ  
クトのある歌詞がいちいちツボに入る。なん  
たって、孤独と憂鬱の中で愛を求めてさまよい  
歩くような心情が歌われるかと思いや。サビ  
が「ずっと ぎゅっと ミット 構えて 待つ  
ていても いつまでも どストレートは來な  
い」といきなり野球に例えられてるのだから。

「ぐうの音も出ないロマンスで会おう」「明日  
は魔法のリズムでふあんふあん」

おっしゃる通り、こっちだってぐうの音も出な  
いし、ふあんふあんする。いや、「ふあんふあ  
ん」って一体何だろう。よく分からぬのに、そ  
のセンスはどストレートに来てしまう。

振り付けが歌詞にピッタリとマッチし、手話  
のように視覚で伝わってくる。鍵盤が向かい合  
い、安定感のあるバンドサウンドだけでも十分  
楽しいのに、そこに踊りが加わるとは、どこを見  
ても楽しいだろうから、目のやり場に困る。どう  
したものが歌詞にある「一体僕はどうなっちゃ  
うんだろ」とは、こっちのセリフだ。

「次は最後の曲です。ご清聴ありがとうございました。また会う日まで」

ライブハウスとは思えない、何かのホールで  
のコンサートかと思ってしまうほど落ちていた  
丁寧な MC(またもや翻訳スタイル)で、最後の  
『CinemahoΩ』へ。

逆光のような照明の中、2人のボーカルが歌  
い出す。次第に演奏が大きな盛り上がりに向  
かっていく高揚感といつたら。

「カメラワーク ルーカスにフォーカス た  
めらわずクラフトワーク サイエンスな FUCK  
キューブリックなイメージ シンセサイザー  
フレーズ」

映画にまつわるキーワードが散りばめられ、



じゅんじゅん…Vocal



MAX…Keyboard,Vocal



アユ…Drums



はるか…Keyboard,Chorus



キム…Bass



森川あづさ…Keyboard,Chorus



ナナエ…Guitar,Chorus

韻を踏んだ歌詞。遊び心満載だ。だけど、センチ  
メンタルなメロディと、ダイナミックなサウン  
ド。これが、MAHOΩという映画をラブストー  
リーにも超大作のサイエンス・フィクションに  
も変えていく。ライブハウスをスクリーンの中  
に投げ込み、その世界にすんなり入ってしまう。

やがて現実に戻るかのように、最後の「あこ  
がれ」と繰り返される歌詞がキュンとさせてく  
れる。この曲は、どこかの国の一人の少女が抱  
いた憧れのイメージなのだろうか。上映が終わ  
り、映画館の明かりが点いてしまった。だけど、  
そんな夢から覚めてしまったような寂しさも心  
地よく感じる。

そして音が一斉に止んだ後はナナエのギ  
ターだけが響き、長い余韻を作る。その後はは  
るかと森川の鍵盤だけになり、じゅんじゅんと  
MAXが「M, A, H, O, マホー」とかわいらしく歌  
い、終了。

じゅんじゅんが「謝謝」と小さく呴き、MAHO  
Ωのライブの終わりを告げる。

初ライブとは思えない充実感のあるライブ。  
終演後の客席は笑顔と拍手で包まれた。彼女た  
ちは間えさせるようなかわいさがあり、これ  
からますます発展していくとなると、期待せざ  
るを得ないです。

中毒性のあるメロディと歌詞。決してぼんやり  
とした音楽ではなく、どストレートに投げ込  
んでくるポップなフレーズ。そして魔法から映画、  
生理から野球まで、幅広い世界観を持ってい  
る。

これは、何かが始まる予感がしてならない。

発音しないからといって MAHOΩの「Ω」は  
決して蛇足ではなく、ギリシア文字の最後の配  
列文字だけあって、楽しそうかわいらしさの最  
終地点まで連れていってくれるためのΩでし  
かない。

これから何度、魔法を唱えられ、魅了され  
いくことになるのだろうか。MAHOΩ、できる限  
り早くその体験に触れることが強くオススメし  
ます。

## セトリリスト

1. MAHOΩの Show
2. mahOtokiΩ
3. Splash !
4. しあわせの恋
5. 未知語／未知絵
6. 僕らに愛を
7. CinemahoΩ